

公民館報 二 すと

小須戸町公民館
教育委員 矢野三郎
事務主任 矢野三郎

北村知事の語る

小須戸町発展策

去月二十三日当町清風会
会合式に出席された北
村知事は、北村町長
の席上挨拶中、小須戸
町の発展策として、町
民に充分考慮して、町
と左の趣旨の談話をされ
た。

「小須戸町に前後数回お
邪魔して町の実態を知
ると、今当町が近隣の他
市町村に伍して遅れない
様に発展してゆく、為に
は町民の皆様に良く考
えて戴かねばならぬ重要
な問題が二つあると思
う。

その一つは町の中心産
業を振興する事である。
これは従来町にあった産
業を育成強化する場合も
あり、また新しい観点か
ら立地条件その他を考慮
して新たな産業を興す事
も考えねばならず、此の場
合は相当の量を伴わねば
ならぬ。近い例が、燕市
の洋食器等は従前になか
つたもので、製菓、製糖
に絶えず研究改良を加え
相当大量に出来るとなる
ともう押しも押されぬ

町民は町の発展を望んでいる

隣接各町村の合併に依
り、相対的に小さくなつ
た小須戸町も、三校統合
の新校舎建築と、県立病
院の設置決定により、小
さいながらも、其の町の繁
栄に結構な事である。誠
に、町民の有志の青年が
、百年の計のため、慶賀
にたえない。町部として
は此の新校舎建築に對し
全力を挙げて之が實現に
協力を惜んではならな
い。

蓋し、町勢の伸張を計
るには、在来産業の發
展、新規事業の勃興等
、方途は多々あると思つ
が、最も有効な一策は駅
の改称と信じている。

勿論、駅設置当時の地
元の人の犠牲と、永年
呼び慣れた駅名への思い
出は、仲々に忘れ難く、
何物にも換え難い如くあ
らう事は、想像にたく
ない。ために過去に、幾
度となく駅の改称に關し
矢代田村民各位に懇願し

農業委員の改選

去る四月政正になつた
農業委員法に基づく農業委
員改選は去る十六日行
われたが、当町には無
投票で左の諸氏が当選さ
れ、今後の農業行政を強
く推進される事になつ
た。(○は新任)

○野崎 正雄 (小 須)
○池田 清六 (横 川)
○加藤 勘一 (横 川)
○海津平 一郎 (水 田)
○小林 孝治 (矢代田)

○土田 五郎 (天ヶ沢)
○新井 政吉 (矢代田)
○打合 七郎 (小須戸)
○阿達 忠太郎 (矢代田)
○村山 三吉 (小須戸)
○吉沢 松吉 (鎌 倉)
○板谷 哲治 (鎌 倉)
○栗原 久平 (電 文)
○丸山 愛一郎 (新 保)
○丸山 四郎 (新 保)
○丸山 清三郎 (農 協)
○吉井 喜代太 (共和組合)
○加藤 徳七 (農協推進)

続けて来たものの、いつ
も話は不調に終り、町民
は失望の歎を洩して来
たものだ。

然し、合併から取り残
されて自主独立と決めた
此の小さな町繁栄の、一
大躍進としての役割を、
果たすために、矢代田村
民各位が、大乗の覚悟に
立つての深い御理解と、
温い御協力の許に、是非
共、小須戸町と改名に御
賛同を賜り度いものと、
衷心より願するもので
ある。

やがて、病院ができて
患者の来診が初り、又町
の表看板として渴望する
「小須戸駅」が實現し、
矢代田新校舎の落成した
時、全町民の歡喜は頂上
に達し、これによりも
たらされる有形無形の福
利に依り、町の発展は期
して待つ事が出来ると同
時に、隣接の合併町村に
對しても、我が町の同結
の堅固さを、誇示出来る
と期待するものである。 一町民

使ひみちを相談してきま
したが、竹井さんの考え
では、一生のうち一度
は目を通すべきだと思
われる基礎科学の入門書
のようなもの、または、い
辞典のような必要なる百科
辞典の御意見でした。
のをの御意見でした。
のをの御意見でした。
のをの御意見でした。
のをの御意見でした。

毎月千円の図書寄贈

矢代田の竹井さんより
この度、矢代田の竹井
さん(竹井製作所社長)
より、毎月千円位の図書
を寄贈したい、という
有難いお話がありまし
た。こゝに紙上をかりて
お礼を申しあげます。
よろこんだ係が早速お
伺いして、その
ださい。

七月十日日固定しなければ、不便
「第二回、赤
ちやんのしつけ」
の友の折返し
の友の折返し
の友の折返し
の友の折返し
の友の折返し

夏はがきの發賣と
夏スタンプのサービス
みなさ
んから好
評をいた
して、夏
はがきの
發賣は、
今年、
は富岡
の園果
の園果
の園果
の園果
の園果

小須戸町清風会の結成

清風にして澁濁とした
県政を北村知事に期待
し、その推進を精神的に
支援、激励するものと
された。

役員
顧問 村山 吉五郎
顧問 長谷川 鉄太郎
顧問 田中 四郎
顧問 岡田 六太郎
顧問 森田 政吉
顧問 丸山 愛一郎
顧問 丸山 清三郎
顧問 吉井 喜代太
顧問 他八四名

なぎさ
棟上餅
神武以来の景氣と世間
で言っている間に、町や
村のあちこちで家を新築
したという話を耳にする
。先日も町のある所で
新築立派に完成して、
新築立派に完成して、
新築立派に完成して、
新築立派に完成して、
新築立派に完成して、

待ち遠しい
すわらじ
すわらじは一年中問題で
同じ順路をまわっている
と聞いています。問い合
わせても発表できると
思っています。それほどと
るべきを持って下さる者
も、それを今一つ加えたい
のはすわらじ園の上演
です。たが巡業のお芝
居が、いよいよ終戦以
来毎年一回は訪れて、(そ
れも新潟県では小須戸だ
けだとか)町の土産の胸
底深く何か大きな感動を
残して行つてくれるすわ
らじだけ、なんといつ
ても町の年中行事的な親
しみを感じさせてくださ
す。村の老人も町の主婦
も、すわらじに来たホス
ターが張られるとほとと
しい気持ちになるのです。
お願ひしたいことはその
期日や上演の種目(外題)
をなるべく早くに発表さ
てくださることです。お
からなければそれも仕方
ありませんが、しかし

矢代田の三蔵坂

此の若者は三蔵とい
い、三条在の農家に生
まれたが不幸にして幼い
うちに両親に死別して、
三条の縁家に成長して、
三年前の時の三蔵城主三
条左衛門定明の小舎とし
て仕立てたが不慮に
は此の三蔵から中へはな
れようとは致しませんで
す。

初音がた 四宮純二作
父の声、母の声 矢野寿男作
矢野寿男作

若人の祭典
青年体育大会
日時 八月十一日 午前九時
会場 小須戸中学校グラウンド

若人の祭典
青年体育大会
日時 八月十一日 午前九時
会場 小須戸中学校グラウンド

小須戸風土記

あらゆる手を以て防戦
したが武運は三条左衛門
定明に利がなく遂に城主
を始末一家一門は悲惨な
最後を遂げたのでした。
三蔵は不思議に一命は
助かったが今では自分の
主家もなく、敵者も方方
明となつて再び孤児同様
になり、流浪して此の里
に来ました。三蔵は、思
ひが武家奉公も嫌なも
の、もとを正せば自分は
百姓生まれです。下から
な野心を捨て、もの巨
なつたのでした。

若人の祭典
青年体育大会
日時 八月十一日 午前九時
会場 小須戸中学校グラウンド

「つあつあ、かあか」

—(ことばなおし運動)—

「東京もんはことばが...」

「大人は時と所、そして...」

「二、三ヶ月東京へ行く...」

「この頃どこでも会合や...」

「女の人には失礼ですが...」

「一昨年来衛生施設の一...」

「白でお願ひするのであり...」

「次は撤水の納入です...」

「小須戸町体育協会主催...」

「撤水組合長 大塚 長...」

「横水分館だより...」

「信仰と観光の...」

「撤水についての...」

「御願ひ...」

「水に注意!!」

「柔剣道クラブ...」

「民謡保存協会...」

「北山神社夜灯句会...」

「猛暑と疲労について...」

「商工会役員の改選...」



御協力に感謝

「去る二十一日横越中...」

「七月 購入図書...」

「連青だより...」

「柔剣道...」

「七月 購入図書...」

「連青だより...」

「柔剣道...」

「七月 購入図書...」

「連青だより...」

「柔剣道...」

「七月 購入図書...」

「連青だより...」

「柔剣道...」

「七月 購入図書...」

「連青だより...」

「柔剣道...」

「七月 購入図書...」

「連青だより...」

「柔剣道...」

「七月 購入図書...」